

会 議 の 概 要

1 会 議 名	令和5年度第4回宝塚市社会教育委員の会議
2 開 催 日 時	令和6年2月22日（木） 13時30分～15時00分
3 開 催 場 所	宝塚市役所 研修室
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	■木下委員 □田中委員 ■林委員 ■石井委員 ■大西委員 ■温井委員 ■皐月委員 ■西本委員 ■種村委員 □寺澤委員 ■湯浅委員
5 傍 聴 者 数	0 人
6 公 開 の 可 否	☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可
7 議題及び結果の概要	◆議題 （1）宝塚市立宝塚自然の家指定管理者制度導入後の検証 ◆報告 （1）令和5年度阪神北地区社会教育委員協議会 第3回理事会について

令和5年度第4回宝塚市社会教育委員の会議 議事要旨

1 議題

(1) 宝塚市立宝塚自然の家指定管理者制度導入後の検証

(議長)

今までの協議した内容を踏まえて、意見書(案)を作成した。意見書(案)について、質問やその他追記したいことがあればお願いします。

(委員)

このような多様な分野の活動ができる施設はあまりなく、非常に貴重な施設だと思っている。大規模校は難しいかもしれないが、中規模校の活動場所としては最適で、1・2年生の生活科学習、3年生の環境体験学習、5年生の自然学校などの学校教育にも繋がっていくと感じる。バスの借り上げ料が課題だと認識している。まずは、施設のアピールをイベントを通じて行っていくことが重要だと考える。

(議長)

学校の利用が進めば、活性化されると思う。

(事務局)

例えば、現在のホームページには学校の先生の皆様へといったページがないので、選ばれるようなコンテンツが必要だと思う。また、学校カリキュラムと連動できれば良いのでは。可能であれば、意見書での学校利用の推進の項目に学校規模や教育カリキュラムに沿った自然体験活動をできる場所としてPRするということをお願いしたい。

(委員)

3年生の環境体験学習では、この施設へ行けば、十分な活動ができると考える。ただし、行くことが難しい場合は、他の施設から標本を持ってきていただくことなどで対応している。5年生の自然学校では、丹波少年自然の家が閉所したことによって、淡路や丹波などに予約が集中し、抽選となっている状況。他市などはバスで移動し1日だけ別の施設で活動をしているところもある。そういった状況から、他市などの受け入れる活用方法もあるのではないかと考える。

(委員)

少子高齢化という大きな流れの中で、我々が何をしていけばいいのかという議論が必要だと思う。市民からの施設の認知度はどうか。もっと利活用を進めていく必要や次の世代へ社会貢献する必要がある。高齢者と若い世代が議論できる場が大切だと考え

る。

(委員)

年齢を限定せずに、多世代が一緒になり高め合うような場といった文言があれば良いと感じる。

(委員)

エフエム宝塚にて月に1回、番組に指定管理者が出演している。主にイベントの告知をしているが、もう少し踏み込んだ内容になればと考えている。是非皆さんにも聞いていただきたい。

(事務局)

指定管理者だからできることがたくさんある。冬期の休所中であってもできることをイベントとして実施している。

(委員)

夏期であれば教職員の研修の場に最適だと思う。生活科や理科などの担当者会にて広めて、自分自身が学んだことを学校教育活動へ繋げたいと考えるのでは。PTA 活動としても可能だと思う。

(委員)

学校教育と社会教育を分ける時代ではないと感じる。

(事務局)

学校教育のカリキュラムには目的やねらいがあり、そういったものが達成できるコンテンツが必要だと認識している。

(委員)

中学校のトライやるウィークの場所としても良いのでは。

(事務局)

既に実施しており、社会教育施設は積極的に協力していく方向性である。

(副議長)

自然体験をさせたいと考えている保護者が増えていると感じている。行ってみたいと思っている人へうまく繋がるような広報活動が大切。一度行けば、行って良かったと

保護者が発信するのでは。また、先生方が体験することによって、子どもたちにも学ばせたいと感じるようになるのでは。

(事務局)

失敗する時間も必要で、それが良い思い出にもなる。

(副議長)

子どもが失敗しないように保護者が補助をしてしまうことがある。コストパフォーマンス、タイムパフォーマンスが重要な時代ではあるが、それだけではなく、時間がかかっても、失敗してもいいということを学べる施設になれば。

(委員)

施設までのアクセスが課題だと考える。解決することによって利用者数が伸びるのでは。①指定管理者がバスを所有し送迎する②教育委員会がバスを所有し市内小・中学校が自由に使えるようにするのはどうか。バスに費用がかかるのであれば、クラウドファンディングの制度を利用してはどうか。先ほど認知度という意見があったが、私の世代はほとんどが転地学習で施設を訪れたことがある。地元で子育てをしている方には協力してもらえるのでは。ドライバーの課題もあるが、退職後で協力いただける方などへ費用をお支払いしできるのでは。各学校で予算化するよりは、一括で依頼する方がコストを抑えられるのではないかと感じている。

(事務局)

交通手段の確保となれば、宝塚自然の家だけではなく、広域化し宝塚市北部の魅力を伝えていくという方向性で周遊観光バスのようなものができれば。

(副議長)

季節の野菜などを買に行くツアーなども良いのでは。

(副議長)

市所有のマイクロバスは使用できるのか。

(事務局)

可能ではあるが乗車人数が限られる。

(副議長)

1クラスずつ日を変えて行くことも可能ではないか。

(事務局)

可能ではあるが、クラスによって天候等などの理由でカリキュラムが異なる可能性がある。

参考までに、宝塚自然の家のイベント開催時に市のマイクロバスを JR 武田尾駅からピストンで運行したことがある。予約制にしたが満席であったため、需要は高いと考えられる。乗車人数が限られることから、学校利用には難しいこともあるが、改めて意見をいただき、検討する必要があると考える。

(委員)

マイクロバスを 1 台、中型車にすることは可能か。

(事務局)

予算上難しい。

(副議長)

芋堀りと合わせて、宝塚自然の家で遊ぶようなセットでの来所があれば、利用率も増えるのでは。

(事務局)

以前に市のマイクロバスを使用した際には、長谷牡丹園と連携しそういったことを実施できないかと検討したが、行先の滞在時間が短くなってしまうなどの調整が難しく実現できなかったが、考えていくべきだと認識している。

(委員)

関西学院大学の千刈キャンプ場は駅から遠く不便ではあるが、バスが少ないながらも、それに合わせて計画することができる。利用する側が利用しやすい移動手段があれば良いと思う。

(事務局)

宝塚自然の家行きのバスも本数は少ないがある。イベントの開催時間とバスの時刻が合っていないケースもある。

(委員)

難しいことはたくさんあるが、学校で周知を図るなど、できることから始めるのが大切だと思う。

(議長)

小学校等での経験は大切で大人になってもまた行こうと思う。学校教育や環境保全等の地域団体との連携は重要だと考える。

(事務局)

市外の放課後児童デイの民間団体の利用や Pa1 たからづかに通う子たちの利用がある。この施設は出会いの場でもあり、利用する幅が広がっていけばと感じる。

(委員)

関係者へ周知できれば様々な子どもたちの良い場所になるのでは。

(副議長)

放課後児童デイは長期休業中は行先を探している。人が多いと委縮してしまう子もいて、誰でも受け入れていることが広がれば良いのでは。

(委員)

学校のカリキュラムで実施するのが難しいのであれば、PTA 主導で実施はどうか。PTA の研修会で実施し、各学校へ周知していくようなことができればと考えている。民間企業ではなく青少年会議所など民間の団体と連携することもできるのでは。また、テントなどで宿泊を伴う場合の、人件費や管理費などを試算することも大切だと思う。

(事務局)

今年度も実施したが、次年度にも事業化したテント泊を実施する予定。

(副議長)

三田市の野外活動センターではリピーターが SNS 等で魅力などを発信していると知り、同じような取り組みができないかと感じた。

(議長)

多くの意見をいただいているが、時間のため、事務局より今後のスケジュールについてお願いする。

(事務局)

今回いただいた主な意見である①交通手段の確保について②学校の活用について議長を中心に加筆、修正させていただく。今後のスケジュールについては、4 月に本議題

の最後の会議を開催する予定。5月に教育委員会へ報告できればと考えている。日程調整については、また案内させていただく。

2 報告事項

阪神北地区社会教育委員協議会第3回理事会について

- (1) 日時 令和6年1月31日(水) 14時～
- (2) 場所 伊丹市生涯学習センター
- (3) 内容 第2回研修会の開催及び内容について

(議長)

それでは、以上をもちまして、本日の議事を終わらせていただく。